

令和7年2月 市長定例記者会見

令和7年2月12日(水)

午後3時30分 開始

【広報広聴課長】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 2月、3月の市長定例記者会見ということで、今回、事業発表も予算を中心に説明をさせていただきたいと思います。少し長くなるかと思いますが、挨拶はこれぐらいにさせていただいて早速中身に入っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【広報広聴課長】 続きまして事業発表に移ります。

まず1項目め、令和7年度当初予算案及び令和6年度3月補正予算案の概要について、お願いいたします。

【市長】 予算関係、令和7年度の当初予算と令和6年度の3月補正予算の概要の説明をさせていただきます。

令和7年度当初予算は、第8次敦賀市総合計画の成果目標であります「将来を見据えた人口減少対策、好循環モデル」という形で我々申し上げますけれども、その実現に向けまして、全庁的に人口減少対策を推進することとともに、北陸新幹線敦賀開業の効果を最大化・持続化できるように敦賀のまちづくりを進めるということを考えながら予算をつくってまいりました。

予算の編成に当たりましては、国や県の支出金を積極的に活用すること。それから、事業目的に応じまして、ふるさと応援基金等からの繰入れも行っております。また、国の補正予算に合わせて事業の一部を令和6年度の補正予算に前倒しをするということもやりまして、事業をより早く進める、それから着実に進めるということをやっております。

その結果、予算規模でいいますと、新年度の予算規模は前年度と比較して、一般会計は0.4%の増、全会計では0.1%の減となっております。

それでは、当初予算の主な事業について、お手元に配付した資料のとおりですが、予算編成の重点施策ごとに主な事業をご紹介させていただきたいと思います。

初めに、「子育て・教育」の分野です。

まず、結婚支援事業をこれまでもやってきておりますけれども、我々の考えといたしましては、結婚するしないというのは個人のそれぞれのお考えなんですけれども、結婚を希

望される方が誰でもその希望をかなえやすくするように、職場間の出会いに焦点を当てた異業種交流会を開催して出会いの場を創出するということを支援、応援していきたいと思っています。

次に、こどもの居場所づくり支援事業費補助金につきましては、地域の中で全ての子どもが安全安心に生活できる居場所づくりのため、こども食堂や学習支援に取り組む団体への支援を行います。

次に、教育の分野になりますけれども、英語教育充実事業といたしまして、小学校にネイティブスピーカーの外国語指導助手、ALTと言われているものですが、ALTを配置しまして、児童の英語によるコミュニケーション能力を育むとともに、外国の文化、習慣に触れる機会をつくっていききたいと思っています。

次に、国際理解促進事業については、敦賀には人道の港敦賀ムゼウムがありますが、ここと国連難民高等弁務官事務所、UNHCRとで連携しまして、現代の難民問題をテーマとした小学校の高学年向けのワークショップを実施することによりまして、世界情勢に関する市民理解の促進を図るということ。それから、平和の尊さ、命の大切さについて改めて考える機会をつくっていくということ。そして、先ほど敦賀市には人道の港敦賀ムゼウムがあるということを申し上げましたが、敦賀市ならではの教育体験を通してシビックプライドの醸成につなげていききたいと思っています。

次に、「定住・移住」の分野です。

定住移住促進事業では、つるが移住定住サポートサイトが敦賀のホームページであるんですが、それをリニューアルいたしまして、定住希望者向けの情報発信強化による移住の促進とともに、本市と都市部での暮らしや働き方を比較すると、データに基づいて実態を発信することによって若い方の定住、それからUターン促進につなげていきたいと考えています。

次に、「地域経済」です。

皆さんにも既にご紹介していますが、まちづくりアクションプログラムが制定されました。このまちづくりアクションプログラム推進事業、それから神楽通り道路空間再整備事業、そして金ヶ崎周辺魅力づくり事業で、敦賀まちづくりアクションプログラムの主要プロジェクトである氣比の杜整備構想の策定をはじめ神楽通りの再整備や金ヶ崎エリア公園整備等に係る経費を計上しております。

次に、敦賀ものがたり創出事業については、敦賀が誇る歴史や文化、暮らしの中に点在

するキーワードやコンセプトを洗い出しまして、これまでとは異なる視点から、それらを結びつけて敦賀の魅力を深掘りする新たなストーリーを生み出すということをやっていきます。

これまでこういうことというのは、割と例えば教育とか歴史の分野で、本、文章だけでやるということがあったかと思うんですけども、今回はこういうことをやることの成果として書籍販売もやっていきます。そして、より広く敦賀文化を発信して全国からの誘客につなげていくということで、単に教育や歴史の分野だけではなくて、それを例えば敦賀にもっと人に来ていただくというようなことに結びつけていきたい。観光ということになりますけれども、そういうところに結びつけていきたいというような事業になります。

次に、大規模農業支援事業費補助金です。これは大規模な営農を支援する取り組みとして、株式会社ミライスつるが気比が導入する乾燥調製施設の建設を支援いたします。

次に、「安心と暮らしやすさ」です。

交通弱者移動支援事業では、日常の移動が困難な交通弱者を支援するために、一部地域に居住する高齢者を対象としまして新たな移動手段の実証事業を行います。

次に、アーバンスポーツ施設整備事業については、余暇の充実、健康増進等に向けて、都市型スポーツを体感できる施設を整備するために実施設計を行います。特に若い方に人気のスポーツをターゲットにしたという事業になります。

次に、運動公園管理費では、総合運動公園内の多目的広場がありますけれども、そこを芝生化しましてフィールドスポーツができるグラウンドに改修するために実施設計を行います。

次に、健康づくり推進事業では、市民の健康寿命の延伸のため、株式会社平和堂との協働によりまして、血圧や体組成が測定できる健康ステーションをアル・プラザ敦賀の店内に設置いたします。

以上が令和7年度の当初予算の概要ということで紹介をさせていただきました。

続きまして、令和6年度3月補正予算について申し上げます。

3月補正予算につきましては、事業の完了や財源の確定に伴うもののほか、早期に予算措置を必要とするものについて計上いたしました。

また、国の補正予算を活用してやっていくということで、市内の消費拡大を図りながら、事業者の物価高騰対策の一助とするために、ふくアプリによる敦賀市内の登録店舗を対象としたプレミアム付デジタル商品券を発行いたします。また、情報発信、新たなサービス

の提供及び業務の効率化のため、敦賀市公式LINEを開設しますが、その周知、広報もいたします。さらに、清掃センター整備及び中学校校舎の照明のLED化等の改修を前倒しで、この3月の補正予算でやるということで予算を計上しております。

次に、避難所の生活環境の改善ということが今すごく注目をされていますけれども、市内10地区の公民館等を地域の防災拠点と位置づけまして、トイレ、キッチン、ベッドを中心とした資機材を購入し、避難環境の整備を行います。

その他の予算といたしましては、職員の早期退職に伴う退職手当や、第97回選抜高等学校野球大会に出場する敦賀気比高等学校への激励費を計上しております。

以上が3月議会に提案いたします令和7年度当初予算及び令和6年度3月補正予算の概要でございます。

【広報広聴課長】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けいたします。最初に幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 当初予算ですけれども、アーバンスポーツの施設であったり、サッカー場ではないですけど芝生化したり、あと金ヶ崎エリアであったり氣比の杜であったり、いわゆる箱物というんですかね、ハード設備の投資が結構目立つかなと思います。当然、財政規律も考えられた上での予算編成だと思うんですけれども、長期的な財政運営の見通しといたしますか、その辺り、市長のお考えと、あと事業の廃止とか見直しとか、そういったことも合わせて進めていくというような、そういうようなお考えでしょうか。

【市長】 今おっしゃるとおりで、当然、財政規律というか、財政の今後の動きということを見ながら予算を組んでいるところです。

幸い敦賀市、ふるさと納税が入ってきております。ただ、それで財政が安心なのかというと、そこは我々ふるさと納税の制度の安定性なども考慮しながら、これから予算を組んでいくよ、計画していくよということは、昨年来ずっと申し上げていることで、そういうことも配慮しながら今回の予算も組んでおります。

今、箱物というお話があったんですけれども、予算を組むときに考えていたのが、新幹線敦賀開業で、実際開業したら敦賀はどうなるんだろうと、本当に人がたくさん来るのかなと言っている中で、この1年間やはり観光客を含めてたくさん人が来ていただいている。特に中心市街地を中心に活性化しているというのは間違いないと思うんですね。

その中で、新幹線開業効果を新幹線効果に結びつけていくということを言っていますけれども、その中で、まちづくりアクションプログラムというのが策定されて、新幹線が来

た時代の敦賀というこのまちをしっかりとつくっていく、これはやりたいと考えています。それはまさに今のタイミングだということで、その予算はしっかり持っていきたいということがまず一本、柱としては、今回テーマとしてはあったのかなと思っています。

もう一つが、人口減少ということを考えたときに、敦賀に住んでいることの住みやすさだったりとか、あるいは敦賀に住んでいて楽しいと思ってもらえるということがすごく大事だと思っていまして、そういうところの取組というのをおろそかにしては、それこそ箱物ばかりみたいな話にもなりかねない。やはり生活がよくなった、便利になった、あるいは楽しくなったということを実感してもらいたいということを思っています。

そういうところの一つの取組として、アーバンスポーツの話があったりとか、あるいはフィールドスポーツ、芝生化すると例えば今おっしゃっていただいたようなサッカーとか、あるいはラグビーとか、そういうスポーツにはすごく適したグラウンドになると思うんですけれども、そういったことも力を入れていかなければいけないと思います。

そのため、財政ももちろん見ながらなんですけれども、しっかりとお金を入れて、新幹線効果、あるいは先ほど言いました楽しく住みやすくというところを追求していくというところを2本立てでやっていくというのが今回のテーマだったのかなと思っています。

【記者】 もう1点、氣比の杜のところは今後まちづくりの一つの大きな目玉なんだろうと思うんですけれども、新年度は何でしたかね、意識調査とかそういったステージとか段階だと思うんですけれども、こちらについてはまだもうちょっと先の話なのかもしれませんけれども、現時点の市長の思いとしては、大体いつ頃ぐらいに形にというか、完成というかオープンというか、どれぐらいの今の時点では思いをお持ちでしょうか。

【市長】 そうですね。今後の議論の進み具合にもよるのかなとは思っているんですが、思いとしてはなるべく早くやっていきたいなと考えています。

ただ、金ヶ崎もそうなんですけれども、ある程度コンセンサスというか、みんなでこれでいこうという雰囲気が出てこないといけないエリアだなと。敦賀にとってすごく大事な、市民の思い入れも強いエリアですので、そのコンセンサスは丁寧に取っていきたいなと思っています。

ですからスケジュールでいうと、来年度がそういういろんな相談をしっかりしていく期間。それから実際、構想、それから設計という形を踏んでいくと、どうですかね、3年後ぐらいには、こういう形で何なら工事がスタートするぐらいのイメージですかね。まだ議論の進み方にもよるとは思うんですけれども、逆にあまり時間をかけてもいけないのかな

とも思っているので、さっき言いましたように新幹線なども意識した事業になりますので、開業効果の持続というところを意識した事業になりますから、タイミングをあまり外してもいけないということで、大体それぐらいが目安かなと思っています。

【広報広聴課長】 それでは次に、各社より質問をお受けしたいと思います。

【記者】 ふるさと納税のほうに関して伺います。歳入の部分では、敦賀市でも大分ふるさと納税は安定してきて入っているというような状況かと思いますが、改めて市長として、ふるさと納税の敦賀市の収入というのは、予算を組む上でどんな存在のものか、どのようにお感じになっているかというのを教えてください。

【市長】 敦賀市にとってでいいますと、まず寄附者の方には感謝申し上げたいと思いますし、ふるさと納税によって、敦賀の事業者さんがこれを活用して自分たちの事業を拡大していくとか、そういうことにも取り組んでいただいた。その結果として、こうやってふるさと納税が敦賀でどんどん拡大していったというところは、ふるさと納税の目的に合致した本当にいいサイクルで回ったと思います。

事業者さんにいろいろお声がけをしながら、こういう制度を推進してきた職員の頑張りというのも、自分で自分たちを褒めることになりますけれども、それもすばらしかったと思っています。

ただ、本当に安定もしてきているんですね。金額もずっとここ何年間か同じような金額をご寄附いただいているということで。ただ、やはり制度としての安定性というところが100%ずっと未来永劫この形で続くのか、あるいはこの金額で続くのかというところは、我々は留意しておかなければいけないと思っていますので、本当にありがたいですし、これをまちづくりに生かしていく、どうやって使うかということも大事なので、そこはしっかりとやっていくんですけれども、一方で、もし金額が減るようなことがあったらとか、あるいはこの制度自体がなくなるようなことがあったら、あるいは交付税に算入されるようなことがあったらとかいうことはいろいろ考えていながら、財政の健全性というものも保っていきたいと思っています。

【記者】 ふるさと納税で関連して質問なんですけれども、市長、昨年来、ふるさと納税がなかったら問題ということで、財政面で危機感を全庁内に共有していただいていると思うんですけれども、今回の当初予算では、その気持ちが反映されて事業のスクラップ・アンド・ビルドということで、大体1億6,000万円ぐらい、収入も含めたら2億円ぐらい収支を改善したということで伺ったんですが、この収支の改善の進捗状況に対しての市

長のご所感をお伺いしたいです。

【市長】 ふるさと納税なかったら問題というのはどういうことかということ、毎年出ていく、これを通常経費という呼び方をしたんですけれども、通常的な経費にふるさと納税から10億円充てていると。では、ふるさと納税がなかったら通常的なこともできなくなるというのが問題だという話でやってきたんですね。

令和7年度の当初予算では、その10億円が8億円まで減ったということで、一定の成果は上げてきているんだと思います。

それから、さきほど1.6億円、そして歳入部分を入れて大体2億円という話があって、今10億円が8億円という話なんですけれども、どれだけスクラップ・アンド・ビルドで削減したかというのは、ここからここまで、割とこの1.6億というのは厳密にやっているんで、もう少し幅広く捉えたら金額がもっとあったと言ってもいいのかなと思うんですけれども、一応10億円ふるさと納税を入れていたのを8億円まで減らしましたというところは、一つ成果として初年度としてはよかったのかなと思っています。

ただ、やはり財政の体質改善をしていかなければいけないということで今やっているんですけれども、この1年間検討してきた中で分かってきたのは、ふるさと納税があってもなくても関係なく、我々は財政の体質改善はやっていかなければいけないなということを、この1年間いろいろ調べている中で分かってきたというのがあります。

どういうことかということ、私ずっと財政課といろいろそういうことを相談する中で、問題意識として持っていたのが、ふるさと納税が入る前と今の比較、それから、ふるさと納税がたくさん入っている敦賀市とふるさと納税がそこまで入っていない他市との比較。この2つを比較したときに、敦賀市は何が違うんだろうというところをいろいろと調べている中で、やはり体質改善という意味で少し踏み込まなければいけない、ただ単なる事業のスクラップ・アンド・ビルドだけではなくて、少し考えていかなければいけないところがあるのではないかというところが見えてきているものがあるので、そういうところを庁内でもまた改めて共有しながらやっていきたいと思っています。

また今度、議会説明会に向けて、そういうところの資料もまとめているところなので、今日はあまり詳しく申し上げないようにしておきますけれども、そういうところが見えてきたというのが、ふるさと納税なかったら問題ではない、本当の次の体質改善的な問題というのがあるというところが分かってきたというところですね。

ふるさと納税がもし初めからなかったとしても、やるべきことというのがあったという

感じで今思っています。

【記者】 当初予算のほうで、原子力リサイクルビジネス出資金ということで2億2,800万円が計上されたと思うんですけど、敦賀市内のほうで昨年、敦賀2号機のほうが不合格になって、県内で再稼働を見通せる原発がないという状況の中で、こういった事業が新たに始まっていくというところは市内の期待というのかなり大きいのではないかなと思っていますんですけども、市長は予算がついたことを、県主導だとは思いますが、どのように捉えていますでしょうか。

【市長】 これについては、県主導の中で敦賀市としてこれぐらいの出資ということでやらせていただくんですけども、まだ場所は決まってないんですよね。そのため私かねがね申し上げているのは、今廃炉をやっているのは敦賀半島でいうと敦賀1号機、ふげん、もんじゅ、そして美浜の1号機、2号機ということで、もちろん大飯の1、2もあるんですけども、割と敦賀半島側に集中しているという現状があるので、クリアランス集中施設みたいなものをつくるのであれば敦賀半島エリアでやるといいんじゃないかというのは前から思いとして持っておりましたし、そういうことも申し上げてきましたので、これから正式な場所ということは県からお話、ご提案があると思うんですけども、敦賀半島エリアでそういう事業が立ち上がるというのは、今の環境を考えるといいことなのではないかと思っています。

【記者】 ふるさと納税、私も追加で一つ伺います。今回も85事業に16億円ということなんですけれども、ふるさと納税があったからこそ実現できた、予算化できたというような事業というのもあるんですか。

【市長】 令和7年度の当初予算で、ふるさと納税というのは令和5年度のふるさと納税を基金から繰入れしてやっているんですけども、令和5年のときには5分野に分けてふるさと納税の寄附を募っていたんですね。各分野でそれぞれいろんな事業があるんですけども、それでいいますと、例えば先ほど紹介したアーバンスポーツの整備事業にも、ふるさと納税を充てさせていただいておりますし、それから、こどもの国のリニューアルの事業、①番の健康福祉の増進に繋がる支援というところの項目で、こどもの国のリニューアルの事業費にも充てさせていただいております。

それから、新幹線開業に当たってのまちづくりということで申し上げましたけれども、その中では神楽通りの道路空間再整備事業費、今日ご紹介申し上げたのが、③番の産業観光の活性化の分野で入れております。

それから、これも今日ご紹介した敦賀ものがたり創出事業費、これも③番のところの中に入れてやっているということで、今回こうやってご紹介するような、目玉になるような事業に、ふるさと納税を充てさせていただいているという側面はあるかと思います。

【広報広聴課長】 そのほかございますでしょうか。

それでは次に2項目め、Out of KidZania in つるが2024の開催について、お願いいたします。

【市長】 Out of KidZania in つるが2024なんですけれども、キッザニアは皆さん御存じですか。そのまま敦賀の会社でやろうというのがこのOut of KidZania in つるが2024です。

市内の事業者さんが出展者となりまして、子供の職業社会体験施設キッザニアさんの監修を受けたプログラムを小中学生が体験するイベント、これがOut of KidZania in つるが2024ということです。

北陸3県では初の開催となります。

開催日時は、8月8日、9日の2日間、10時から16時。敦賀市総合運動公園体育館をメイン会場といたしまして、一部のプログラムは、例えば農業のお仕事とかですけれども、そういった一部のプログラムは現地の会場で開催をいたします。

対象は小学校1年生から中学校3年生までです。参加料は1プログラム500円で、ホームページからの参加申込みが必要です。現在は、参加申込みが始まっているんですけれども、市民限定で申込みを受け付けています。定員に余裕があるお仕事プログラムがあれば、2月21日から福井県民限定で参加を受け付けます。

これがプログラムを並べたものなんですけれども、出展者数は26の事業者さん、それから団体さんで、実際の業務に基づいた楽しいプログラムを準備していただいております。多くの小中学生に参加をしていただくことで、市内企業への理解促進や業務内容への興味喚起を図りまして、将来の移住定住につなげていきたいというふうに考えています。

以上です。

【広報広聴課長】 市長、すみません。3月8日、9日ということ。

【市長】 すみません、3月の8日、9日です。

パンフレットは皆さんのお手元に行っていたりするんですか。では改めて。

【広報広聴課長】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けいたします。最初に幹事社さんからお願いいたします。

それでは次に、各社さんより質問をお受けしたいと思いますけれども、何かございますでしょうか。

それでは次に3項目め、北陸新幹線敦賀開業1周年記念「つるが街波祭」について、お願いいたします。

【市長】 つるが街波祭ですが、写真は今年の街波祭、3月16、17の街波祭の写真ですけれども、北陸新幹線敦賀開業を契機に、このつるが街波祭が昨年始まりました。市内のまちづくりプレーヤーが企画運営する様々なイベントが昨年、新幹線開業日に合わせてあったんですけれども、それを総称して、つるが街波祭という名前をつけて昨年開催しておりまして、このつるが街波祭を北陸新幹線敦賀開業から1周年を迎えることを記念いたしまして、3月15日土曜日、それから16日日曜日の2日間開催いたします。

敦賀駅周辺から気比神宮周辺にかけての商店街、それから金ヶ崎緑地周辺などを会場にいたしまして、市内のにぎわい創出に向けた約20、今日現在で22ですか、最新情報はまだ増えるんですよ。まだ増える予定ということで、今現在で22のイベント企画が進んでいるということです。

神楽1丁目商店街では、つるが観光賑わいづくり検討会が主催となりまして、敦賀ゆかりの市町による物販や観光PRを行ったり、市内業者による特産品や飲食の販売を行う予定です。

敦賀駅の周辺では、ottaテナント会が主催となりまして、新幹線沿線の市町を誘致した食のイベントが開催される予定となっております。

【広報広聴課長】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問をお受けいたします。最初に幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 去年も行われたイベントということですが、去年との違いとございますか、開業1年ということもあって、そこも意識した部分というのはありますでしょうか。

【市長】 私まず思っていたのが、1年たってこういうイベントが開催できるとはあまり思っていなかったんですね。そういう意味では、違いというよりも、2年継続してできてよかったというのがすごく思っています。それはやっぱり新幹線開業でまちが活性化したということの表れだと思います。

去年も大体30ぐらいのイベントをやっていたんですけど、ほとんどが民間の方にはやっていた。今回も今で22なので、多分20後半ぐらいのイベントが立ち上がるはずなんですけど、ほとんど民間主体で、ほとんどというか今のところ全部ですかね。今

22、全部民間ですよ。民間の方にやっただいてというの、これが本当につるが街波祭の特徴で、こういうことが2年連続、しかも2日間にわたって行われるということ自体が本当にいいことだと感激しています。

そういう意味では、去年に引き続き、去年との違いというよりも去年と引き続きこういうことができたということがよかったと思っています。

【記者】担当課さんにお聞きすればよろしいんですけど、事前にいただいている地図で赤くなっているところは、どういう意味があるのでしょうか。市長にお尋ねするのはあれなんですけど。

【市長】これは多分、建物ですね。例えば通りとかは青とか緑になっていて、例えばオルパーク、otta、それからアルプラ。金ヶ崎のほうに行くと赤レンガ、博物館、山車会館みたいな感じで、これは建物ですね。坊主BARもお寺さんです。カグールがあつと、そんな感じだと思います。

【広報広聴課長】それでは次に、各社より質問をお受けしたいと思います。何かございますでしょうか。

それでは次に、フリーの質問対応に移りたいと思います。初めに幹事社さんからお願いいたします。

【記者】先日、国の共創会議の中で、原子力立地地域の振興策について国から、事業者からも示されて、避難道路の整備というところで方向性が示されましたけれども、会議にも市長も出席されてご発言もされていらっしゃいましたけれども、一つ美浜町と高島間の連絡道路については整備を検討していくという方向を示されましたけれども、一方で敦賀市も同じような高島市との連絡道路の整備を求めているかと思うんですけれども、そちらについて現時点では工程表のほうには明記されなかったということと併せて、一方で敦賀に関して言うと第2環状道路が盛り込まれたということもありますけれども、その辺りの評価といいますか受け止めと、敦賀高島間の道路については引き続き整備検討を求めているというようなスタンスでよろしいでしょうか。

【市長】今おっしゃっていただいたとおりですね。敦賀高島道路については、引き続き要望していくということになります。

まず大きい考え方として、我々全原協でも申し上げているんですけれども、原子力発電所を動かすんだったら、やっぱりいざというときの広域避難は考えなきゃいけないでしょう。それに関しては避難インフラ、これは道路に限らないと思うんですが、避難インフ

ラというものをしっかりと持っていかなきゃいけないでしょうということがあります。

じゃ嶺南地域でローカルで見たときには、美浜町はかねがね言われていましたけれども、いざというとき、こういうのは風向きだったりいろいろあるんですけれども、南に逃げたいとなったときにずっと真っすぐ南に行ける道が美浜町さんにとって一本もないんですよ。特に新庄のエリアとかだったら一回北に向かわなきゃいけないんですかというようなことがこれまでもあって、0本だったのが1本になるということはやっぱり意味があるんだろうなと思っています。

それは意味があるんですけれども、今度敦賀ということ考えたときには、やっぱり敦賀の人口を考えたときに、南に行くのだということになったら、北陸自動車道、それから8号線、それから国道161号線ということになるんですけれども、人口と道路を考えたときに、これで我々はよしとするのはちょっと道路の数として足りないのではないかなと思っていますし、そういう意味では、敦賀高島道路というのはあってしかるべきということで、これからも要望を続けていきたいと思っています。

敦賀第2環状道路につきましては、現行、例えば敦賀から北へ行くにも、嶺北のほうに行くにも、それから滋賀県のほうに行くにも、今申し上げたように北陸自動車道、それから国道8号線、そして161号線のほうに行かなきゃいけないとなったときに、今そちらに行く道というのがほぼほぼ、どうなんですかね。国道27号バイパス、それから余座のほうから上がるころぐらいしか実質ないんですよ。特に市内の人口が多いところからは。そういう意味で、今回の敦賀第2環状道路があそこの候補に挙がったというのは、避難の面からも。それから杉本知事は、道路関係に関しては、そういう広域避難のことを考えるということと、それからもう一つは、産業の活性化と言われたか、まちの活性化と言われたか、ちょっと言葉が私、正確に覚えてないんですが、そこの2点に重点を置いて要望されていたと思うんですが。

そういう意味で、敦賀第2環状道路というのは、そういった意味合いも、まちの活性化というところの意味合いもありますので、今回あそこで名前がそうやって出てきた、具体的な例として出てきたというのは、いいことだと思っています。

【記者】 今日、電事連から200トンの積み増しのお話が出たと思うんですけれども、全原協の会長として、受け止めのほうは何かありますでしょうか。

【市長】 あそこの関西電力の使用済燃料のロードマップで、こういうふうに出していくよというのは、あればそもそも我々全原協とかとの約束ではなくて、関西電力と福井県と

の約束だというのは、まず1番目にあるんだと思っています。

まだ私、正直、今日その内容というものをまだ見てないので、コメントは難しいですし、市としても正式には聞いてないのでコメントしづらいものがあるんですけども、これから福井県には報告があると思いますので、その報告内容はしっかりと確認していきたいと思っています。

あと積み増しに関しては、あれですね。武藤経産大臣と杉本知事がお話しされたときに、量は出ていませんでしたけど積み増しの話は出ておりましたので、量的な話も含めて、内容は確認していきたいと思っています。

【記者】 あともう1点、話が変わるんですけども、新幹線に関して、杉本知事が先月、初夢ということで小浜先行開業をお話しされたと思うんですけども、敦賀市も沿線ということで、何かお考えといいますか、受け止めのほうは何かありますでしょうか。

【市長】 先行開業という言葉がずっと走っていますけれども、とにかくにもやっぱり早く認可・着工というところが大事なんだと思うんですね。知事もそういう思いで、先行開業という言葉遣いでバルーンを上げられたんだと思うんですけども、本当にここ2年ですか、我々期待する中で、認可・着工という言葉、それに伴って予算がつくと。調査費はちゃんと一定の金額ついているんですけども、認可・着工というところでの予算がしっかりついてくるところがまだ実現しておりませんので、それを早くやってほしいなというところ。その思いがああいうバルーンの上げ方になったのかなと思いますけれども、私としては、しっかりと認可・着工ということがあり、それに対して予算がつくということは最初に来てほしいとは思っています。

【記者】 賛成か反対かというところ。

【市長】 先行開業ですか。先行開業に賛成か反対かは、どちらでもないというか、一つの案としてはあるんだろうと思いますけれども、早く認可・着工するのであれば、そこにあまりこだわりはないと言えないですね。あんまり賛成か反対かという話でもないのかなと思いますが。

【広報広聴課長】 それでは次に、各社より質問をお受けしたいと思います。何かございますでしょうか。

【記者】 先月末にアクションプログラムが公表されまして、市内観光地の整備、具体案が出て、当初予算のほうにも具体的な予算というのがつき始めているというところだと思いますけれども、改めて5年後の敦賀という多くの観光客でにぎわう敦賀をイメージして

つくられたアクションプログラムへの期待と、どのように進めていきたいかというところをお願いします。

【市長】 まず、アクションプログラムなんですけれども、あの検討期間の中で、よくあれだけの質と量のものをまとめていただいたと思っています。特に私、量的なところで、よくあれだけのことを検討したなとちょっとびっくりした思いがあります。

だからこそ、なおさら、あれをしっかりと受け止めて、市としてやるべきところ。役割分担、あそこでも書かれていましたけれども、市としてやるべきところはしっかりとやっていくということはやりたいと思っています。

まちづくりで、5年一定の目安でやっていくんですけれども、先ほどの氣比の杜とかでもありましたように、あるいは金ヶ崎でもそうですけれども、5年たったときにまだ途中というところもあるかもしれませんけれども、とにかく新幹線開業を実際してみてもよく分かったのが、まちってこうやって変わってくんだなというところを実感として持っていますし、それを本当に確実なものにしていく、敦賀のまちが変わったなとしていく大事な5年間だと思っています。

アクションプログラムというのは、先ほど言いましたように質と量に関しては本当によく検討されたものだと思っていますので、あれを着実に実行することによって、5年後というのは一つの目安ですけれども、今後の敦賀のまちづくりというのをしっかりとやっていきたいと思っています。

【広報広聴課長】 そのほかございますでしょうか。

【記者】 ちょっと戻ってしまって申し訳ないんですが、予算で1個だけ最後、教えてください。

クリアランスの出資金が敦賀は2億ということで、たしかまだ公にはなっていないそうなんですけれども、県のほうでも近々全体の総枠が出ということで、出資の金額の割合については、なぜこの金額になったんですか。

【市長】 まだちょっと、ほかのところが出てないので、出資割合でこうですよという説明にはなかなかならないんですけれども、いろいろ県とも相談する中でこの金額になったというところです。これ以上のことを言うのはやめておきます。

【記者】 市長としても、先ほどお話がありましたけど、敦賀が最有力だと思われるということは。

【市長】 本当にこれずっと私、就任以来申し上げているんですけれども、敦賀半島のエ

リアでやるのがいいんじゃないかと思っています。

【広報広聴課長】 そのほかございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了いたします。

午後4時18分終了